

分二厘)砂利三十二萬六千四百三十圓(三割一分九厘)大理石二萬七千二百五十圓(〇割二分七厘)石灰岩二萬二千六百二十二圓(〇割一分九厘)粘土二萬二千八百圓(〇割一分九厘)其他一萬二千七百九十六圓(〇割一分〇厘)にして前年に對比し總額に於て二十萬一千五百八十七圓(一割九分七厘)を増加した。種

類別に於ては砂利十一萬二千九百五十七圓(一割一分〇厘)花崗岩八萬八千八百六十四圓(〇割八分七厘)粘土三千八十四圓(〇割〇分三厘)其他に於て七千五百十八圓(〇割〇分七厘)を孰も増加したが大理石に於ては一萬六千五百圓(〇割一分六厘)の減少を示した。

資源概況速報

資源統制運用準備上の必要ある趣にて之が速報方に付其の筋から通牒があつたので本縣に於ても去る三月二十二日統收第一〇號にて該當事項がある場合には直に速報方通牒を發した。調査事項は

- 一、港灣工場幹線道路其の他の重要諸施設の注目すべき新設閉鎖變更等に付其の名稱所在地及概要の説明
- 二、發見(農産、水産、鑛産、工業等)但し速報を旨とし聞込の程度にても直ちに通報すること。
- 三、研究發明及考案に付其の題目及内容の概況並に研究發明又は考案者の氏名住所及所屬機關等。尙其の工業化せられたる場合に於ては事業者の氏名及住所事業内容の概要等

以上の速報様式は通牒中に記載してあるから報告洩にならぬ様注意せられたい。



躍進レールに乗じ

房總より國都に範を求めて

茨城縣統計協會縣外視察紀行

長驅千葉の粹を求めて我茨城の完備を期さうとして本縣協會の企てた縣外優良町村事務視察第三回派遣隊出發の日だ。

晴れの門出と云ふに天は吾等に辛を惠まざりしか降りしきる霖雨を恨みつゝ水戸よりの一行に加はらうと水海道の小島氏、大寶の横瀬氏、眞瀬の宇津野氏と共に取手に向ふ。待つ程もなく轟々たる車輪の音を響かせつゝ吾等の

六月八日

列車はプラットホームに横着けとなつた。最後部目差して進めば中央に高島團長のエビス顔が吾等を迎へて居る。早速事務分擔の變更を申出た處通牒にもある通り變更は困るとの嚴い御達し然も團長の愛嬌戰術には否み切れず且後に控える才氣縱横の記者連を頼みに心許なくも記事の一端を果さんことを約束せざると得なくなり遊々引受けたかうした苦しみも知らず吾等の汽車は目的地さしてひた走りに進み行く。柏驛で水戸よりの一行上中妻の藤地氏、

笠間の成田氏、野口の西村氏、金砂の會澤氏、坂上の田村氏、安中の飯塚氏、牛渡の稻生氏と初對面の挨拶をかはし前途の御面倒を乞ふ。

漸くにして談笑も弾み、總武ガソリンカーに乗る。乗心地の悪いの上降りしきる雨への嘆聲が聞える。時々職業意識から起る車外の農産物に對する評價の聲が耳に入る。船橋に着いてからも總武線で植付けられた憂鬱な気分は仲々抜け切れぬらしく氣持よい省線電車に乗換へても黙り勝ちだ。餘りに静か過ぎる。皆の緊張した様子を見ると、これが敵陣(敵としての記事の御許しを乞ふ)に乗り込む一瞬間の沈黙かとも思へる。吾等は千葉縣を常に敵として戦ひ續けてゐる。『今度の視察の目的は彼の長を取り、我短を補ふにあり』と云ひたくないのだ。『彼の短を指摘しに行くのだ』と云はんばかりの負けん氣が誰もの眉宇にも表はれてゐるのを見てもそう思へて仕方がない。

さう見た筆者の眼に狂ひがあつても誰もがこの気分であつて欲しいと願ひたい。必ずや近き將來に我が統計は千葉を遙かに見下す立場になることを獨り胸に期して縣廳入りをした。

十時四十五分、千葉驛に着くと改札口には千葉縣統計協會の丹野氏が態々出迎へて下されたのには恐縮した。正門で先着の高松の木瀧氏、八代の鬼澤氏と落合ひ一行漸く勢揃ひして縣會議員控室へと招ぜらる。視察員一行の顔振れを披露すると、

茨城縣統計協會幹事(縣屬)

高島 萬藏
東茨城郡上中妻村書記 藤地 伴介
西茨城郡笠間町書記 成田丑之助
那珂郡野口村書記 西村勝太郎
久慈郡金砂村書記 會澤 孝
多賀郡板上村書記 田村 實
鹿島郡高松村書記 木瀧徳三郎
行方郡八代村書記 鬼澤長四郎
飯塚郡安中村書記 飯塚新之助

なる中食の饗應を受け裏門前で記念撮影をし、至れり盡せりのもてなしに感謝しつゝ萩原屬の案内で本千葉に駆けつける。本千葉驛より再び房總西線電車に身を任せ模範村根形村に向ふ。橋葉驛でバスに乗り限り無く續く田園に雨にもめげず營々として耕作に田植に勵しむ農夫に感激の眼を配り乍ら車はひた向きに根形をさして進む

模範村根形村

役場の改築とかで假舎の爲一寸見當らず、やつと役場を探し出せば、徳田主任がにこ／＼として吾等を招じて下された。統計の専用室かと思はれる氣持よい殿堂だ、四方の壁には農産物、人口、納税成績等總べてを圖表に表示してあり、統計主任及調査員の名札がずらりと掛けてある。卓上には既に整然たる書類が山と積まれてあり、吾等は挨拶もそこ／＼にもう書類を拜見し

千葉縣安房郡主基村役場に於ける視察員一行
(前列向つて左より) 田村、統計主任
高島縣屬(茨城)川名村長、萩原縣屬(千葉)



始めた。高島團長及千葉縣萩原屬より前以つて拜聴しては居つたものゝ聞きしに優る整備充實に只呆然とせざるを得ない。誰の口からか「日本一」だとの聲、皆等しく讃嘆する。徳田主任は只調査員の努力と申さるゝものゝ主任の努力と指導の如何に大なるかを感じ知らず、敬愛の情に燃え頭が下つた。徳田主任の微に入り細に渉る説明を聞き乍ら小票、集計表、報告表、調査原簿、各種材料、米生産統計に關する一切の書類を見る。何一つとして非の打ち處がなく、特に吾々の注目をひいたのは調査員表彰規程を設け年々優良調査員を表彰して活動を促し、調査員報告整理簿に依り、期限の勵行を期する。或は又統計改善簿を備へて常に調査員と改善協調を計る、耕地圖は縮圖一綴として携帯に至便ならしめ、調査員の命合に際しては時間勵行を確守させるために名札を造り出勤順に掛けさせる等、吾等一行にとつて得る所頗る

新治郡牛渡村書記 稻生 高吉
筑波郡眞瀨村書記 宇都野竹雄
眞壁郡大寶村書記 横瀬 定平
結城郡水海道町書記 小島久一郎
猿島郡神大寶村書記 羽富 好
北相馬郡菅生村書記 大瀧 寅直

千葉縣廳

此の室は前二回の本縣の視察團も案内された室で、先づ茶が選ばれてから間も無く今關課長が現れ一同を前にして統計の重要性を説き、茨城と千葉は地理的にも又調査方針にも相似たる点多きに依り、相共に提携して統計の改善に努められたいと述べ、本年の千葉縣統計事業の改善方針の概要を語られるに及んで我茨城健兒の負けん氣は又々發揮され「何くそ千葉縣になんか負けるものか」と云はんばかりに誰もが一齊に課長を睨んでゐる。課長の挨拶が終つて課長を始め統計課員の心から

多く吾等の常に願ふ統計の改善に對し大いなる示唆を得た。

村長遠藤正信氏は温厚篤實の人で統計には特に熱意を持たれ徳田主任と共に之れが使命達成には一意力行なされてゐると聞く。かくしてこそ村民の理解と信望が加はり今日統計の模範村として『統計と云へば根形村、根形村と云へば統計か』と知られてゐるのもこの村長あり、主任あればこそと感銘しつゝ役場前で記念撮影をし辭去す。再び橋葉驛に引返へし三時五十七分列車の人となる。

快晴ならば車窓の眺めも素晴らしいのに雨にけむつて遠望もきかず二時間餘の疲れた頭を感し得ず期待にはづれ只雨を恨むばかり。

一しきり視察の感想談に花が咲いたが次第に耳にしなくなつたと思ふて見廻すと居眠りをして居る者もある、果して何の夢か。中には蠶が何うの、田植が何うのと留守中の家の事迄考へて

る者もあるらしい。上總湊邊りより雨も止み眼前に展けて行く景觀に胸のすく様な感に打たれ『あゝやつとこれで心の洗濯が出来るぞ』等の聲が聞えて来た。勝山北條と汽車は進むにつれいよ／＼展望も變化に富み、雑念も去り漸く薄らぎかけた頃はや鴨川々々の聲に夢破られて驛の外へとおし出される既に指定旅館吉田屋からは番頭が出迎へてくれハイヤーの特別サービスをしてくれた。

旅装をとき入浴前の一時に横瀬氏、鬼澤氏等今日の視察の参考資料配布に大意だ。

六月九日

天氣が良ければ源頼朝で名高い仁右衛門鳥を見物する約束があつたので未だ明けやらぬに跳ね起れば今朝も亦小雨が降り続いてゐる。既に半数は起き出し砂濱を散歩する者、朝湯に浸る者、

る。調査員の指導方法は可成休日農閑期を利用して農繁期は避け是非ない時は夜間招集をして調査員の便宜をも考慮しながら調査の完全を期してゐる。村長川名傳氏は役場生活四十年の長きに及び温厚篤實な勤勉家、産業組合長をも兼ね、凡ゆる方面で村の爲盡瘁してゐるので統計でも産業組合でも模範村を築き挙げた事と思ふ、役場前で記念撮影をし村長や主任の方にバス迄見送られて辭した。

立正大師の聖地

それから鴨川驛に引返し小湊に向ふ雨未だ止まず、小湊に下車すれば稍恢復の兆を示し誕生寺に着いた頃は淡日さへ洩れ出た。案内される儘に誕生寺の山門に入る、壮大なる堂宇は建治二年の創建なそうで後には小湊山の老杉鬱蒼として天を蔽ふ。参詣してから此處の名所妙の浦へ行かうと門前から新

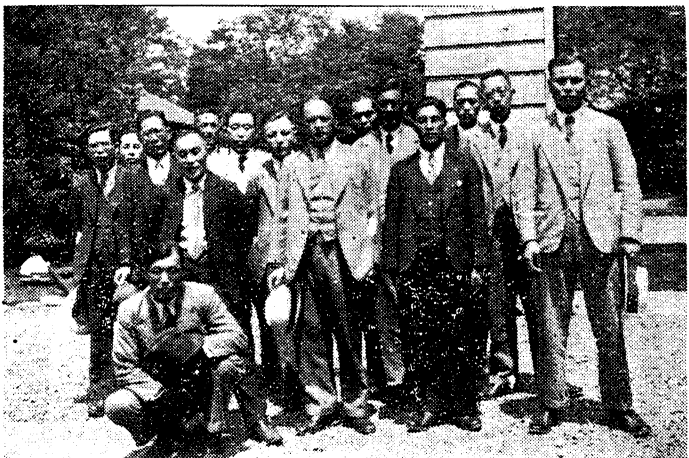
思ひ／＼に夫々心行くばかり旅の情緒を味ふのに苦心の體、思へばあきらめきれぬ此の天氣、何うして我々に朗かな日を與へぬのだ。七時半には昨夕驛前で別れた萩原屬が見えたので一同出發の用意をし雨の中を大バスで主基村に向つた。

模範村主基村

主基と云へば優良産業組合で全國に知られた所。其の村名は明治天皇御即位後明治四年十一月十七日を以て大嘗祭の御儀を宮城内吹上御苑に於て擧げさせ給ふに當り御齊田(主基田)を本村に御定めになられたのを記念する爲大正天皇御大典の際山基村を主基村と改稱した光榮の村で其の名を恥めず色々の方面から模範村になつて居るそう

な。鴨川より保田に通ずる縣道、流れに添ふて雨上りの坂道をうねり／＼登つ

◇内閣統計局玄關にて向つて右端高島屬◇



て行く事一里餘、堂々たる建物の前に下車すれば主基村信用販賣購買利用組合の門札、目ざす役場はさて何處、萩原屬の案内に従へば組合右側の小高い丘に立派な役場、玄關には統計主任の田村博君が出迎へ一同應接間に通される、流石統計模範村の主基村、角から角迄鏡の如く掃き清められ整然たるもの、室内には農林大臣賞の柱時計と表彰額が數枚掲げられてゐる。田村主任は一見して非常に思慮深く、しかも熱心家で勤続十一年に及び今は勸業社會學事統計を擔任し、何を尋ねてもすら／＼と流れ出る様な其の答、平素の努力と經驗がものを云ふのだ。山と積まれた調査書類も何一つ非の打ち所なく驚嘆の外はない。産業統計調査上最も困難な宅地、畦畔等も細密に調査がしてある。近時農家副業の奨励に従ひ、宅地に果樹を栽培するものが多くなつた爲、宅地原簿迄も近々調製する意見等徴に入り細に渉る調査振には感心す

しい遊覽船に乗込んだ。妙の浦は一名鯛の浦と云ふ。貞應二年二月今より凡そ七百余年前日蓮誕生の折清泉湧き出で時でもないのに蓮華が咲き出したと云ふ蓮華潭を通つて明神島へと向ふ。約十丁で船を止めた。船頭が舷を叩きながら餌を撒けば十六人の一行は船が傾く程寄り添ふて一齊に水底を見つめる沈む餌を追ふ大鯛小鯛、右からも左からも下からも出るわ／＼、或は躍り或は跳ね、實に壯觀無比、踊る銀鱗を見て勢からず心を好くし船から上陸すれば又降り出す。吉田屋に引上げ中食の頃には篠衝く雨と化し乗車の頃は風さへ加はる。車中勝浦の絶景を眺める頃には稍小止みとなつたが、其の後は風雨次第に加はり目につくものは車窓を叩く雨ばかり、何時しか本千葉の驛に着く。此處で案内の萩原屬の勞を謝し別れて兩國に向つた。秋葉原驛より自動車で第二夜の我等の宿たる九段の軍人會館に入つた。一同旅装を解き入浴

後食事を済ませばあとの仕事は復命書の整理係の八代の鬼澤氏と大寶の横瀬氏、會計係の安中の飯塚氏と坂上の田村氏が汗でかく此の四人を除いては大東京の夜景を如何して満喫せんと各々作戦に餘念がない。

六月十日

愈々最終の日が来た。朝起るや屋上に行き深呼吸の後護國神社に参拜して部屋に集る。一同視察に關する種々なる話が飛ぶ、何時しか朝食も忘れて座車となつて『兩村共帳簿の整理の良主任者の努力には驚く』と褒める者あれば『いや大した事はないよ、我々も帳簿こそ及ばぬが實地に於ては斷然負けぬよ』負け惜しみの茨城氣性を發揮する者もある、全く色とりどり併し僅かに七ヶ年にして統計優良縣千葉の統計事務を多少でも批評する迄になつたのは非常な進歩で、此の進歩は千葉に

負ふ所甚大であると一しきり話があつて又一人の云ふには『團長さん我々視察員の個々の意見を具申し懇談をしたいから是非座談會を縣廳で開いて戴く様課長さんによく話して頂きたい』等の註文が出る、視察の使命の大半を果して一同は前日來の緊張も打ち忘れて朗かになる。

農林省

女關に刺を通すれば出迎へられた統計課員に省内を案内され一巡して課長室に入る。度々統計講習會で顔馴染の長畑統計官から挨拶がある。其の内昨日沖繩縣への出張から歸つた統計課長が見え挨拶を兼ねての訓示があり、團長より此處にお集の方々は大体各郡の優良町村主任なので紹介されても一

内閣統計局

内閣統計局は非常に快く喜んで迎へて呉れ、時間の不足で挨拶抜き、直に局員の案内で第一製表課に入る。人口動態小票、勞働調査、家計調査、國勢調査と各係別に主任の方から小票提

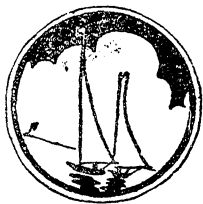
出より内容調査、製表發表に至る迄それは詳しく面白く説明され時の過ぎるも知らず傾聴した。三百餘名の若い女性がソロバンをはいたり、計算器を操つたり、ペンを走らせたり一所懸命働いて居る。何でも着手命令書と云ふものがあつて能率をテストされるのだとの事、サボる譯にも行かず容易

ぢやない、此處では女性に遠慮したのか眞寫係は一向に活躍しない。次の室では國勢調査の中告書が美しい女性の手であり無雑作に數字を記入されて居るので若い眞瀬の宇都野君『そんなに早く符號を付けて間違はないものかね』『いえ、絶対にそんな事はありせん』宇都君しきりに感心

して居る、いや感心したのは宇都野君のみでない、誰もが之は人間業かと驚かされた。之で一通りの視察も終つたので局前で最後の撮影をして解散の挨拶、それから自由行動となつて妻子への土産の品定め、斯くて家族へも喜びを領ち第三回の本會統計事務視察を終つたのである。

寄贈圖書

- 昭和十年大日本帝國港灣統計要覽
- 昭和十年長崎縣統計書第一、四編
- 京都市統計研究會誌第二十九號
- 統計界
- 宮城統計
- 昭和十年青森縣統計書第一、二、三、四編
- 昭和十年香川縣統計書第一、二、三、四編
- 昭和十一年蠶糸類及眞綿統計表
- 東京府統計書
- 和歌山縣勢
- 京都市勢一斑
- 三重之統計
- 東京府産業統計一覽
- 内務省土木局
- 長崎縣
- 京都市統計研究會
- 岩手縣統計協會
- 宮城縣統計協會
- 青森縣
- 香川縣
- 農林大臣官房統計課
- 東京府
- 和歌山縣
- 京都市役所
- 三重縣統計協會
- 東京府總務部調査課
- 東京府工産物一覽
- 昭和十年岐阜縣統計書三、五卷
- 統計上より見たる千葉縣の地位
- 千葉縣總務部統計課
- 千葉縣市町村統計要覽
- 昭和十一年生徒兒童身體檢查統計
- 昭和十年千葉縣統計書第一、二、四編
- 昭和十一年度航空統計年報(第六回)
- 逓信省航空局
- 昭和十年熊本縣第五回統計書第一、二、三、四編
- 熊本縣
- 昭和十年福井縣統計書第一、二、三、四編
- 福井縣
- 昭和十年新潟縣勢一斑
- 新潟縣統計課
- 統計時報第二卷第六號
- 秋田縣統計協會
- 兵庫統計第七十四號
- 兵庫縣統計協會
- 昭和十年沖繩縣統計書第一、二、三編
- 沖繩縣



統計相談所

統計に關し疑
問なり又は不
明な点があら
まじたらどし
下さい。御合
にて町誌にお
答へ致します

問) 鶏及鶯表中飼養戸数の區別は成鳥に依り區分するや、又成鳥と雛を合したるものに依るや、例へば成鳥十羽、雛四十五羽の如き場合の取扱如何。

答) 飼養戸数の區別は凡て成鳥と雛とを合したるものとす。故に設問の如き場合は五十羽以上として掲上するものとす。

問) 農會より報告の耕作用牛馬の頭數と農林統計の牛馬の頭數との關係に付伺ひたし

答) 農林統計の牛馬の頭數は十二月末日に現在する其の市町村内の牛馬の總頭數を調査するものであるから一頭も洩れなく全部調査するのであるが農會より報告する耕作用牛馬の頭數は右の内より耕作に使用せざるものを除くことになる。即ち牛では全然耕作に使用せざる乳中及未だ使用し得ざる

る犢、馬では乗用馬、荷役にのみ使用する馬及未だ耕作に使用し得ざる駒等は耕作用牛馬ではないから之等の牛馬がある市町村では其の數だけ農林統計の數より少くなることになるから調査に際しては充分連絡をとり不合理無き様注意して貰ひたい。

問) 養蠶の掃立數量の調査に際し實際の蠶量が蠶紙に表示したる卵量と著しく相違のものもあるも斯る場合の取扱承知したし。

答) 調査し得るものは凡て實際の卵量を調査せられたし。

問) 米生産統計調査の補助票は藪に懸りて差支なきや。

答) 差支なし、次年の共同印刷の用紙は希望に依りては改むるの用意あり。

問) 米生産統計調査の補助票は藪に懸りて差支なきや。

答) 差支なし、次年の共同印刷の用紙は希望に依りては改むるの用意あり。

問) 栗畑は畑として取扱ふべきや又山林として取扱ふべきや。

答) 果樹園としての手入れを爲すものは畑とし手入れを爲さざるものは山林とす。又樹實は未だ區別調査を爲さざるに付凡て林野産物の内へ合算せられたし。

問) 農作物收穫用物干場たる宅地の一部に夏期に於てのみトマト等を作付する場合あり、斯の如きは其の面積を畑として作付反別調査原簿に記入すべきや。

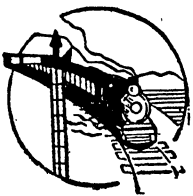
答) 本来の目的が畑とならざるを以て畑の作付反別調査原簿に登載を要せず宅地内の見積反別として作付反別調査票に記入すべし。

問) ピール麥は何麥として取扱ふべきや。

答) 大麥として取扱ふべし。

問) 人口動態票進達の際一票提出洩となり之を翌月に至り發見し、翌月の分と共に出席する場合同票欄外の年月の記入は如何に取扱ふべきや。

答) 市町村送附日録の括弧内に記載の年月分として各票の番號が同日録に記載さるゝものなれば出票洩のものも凡て同月分として取扱ふべきものとす。



各地統計雑信

調査員諸君
何なりと奮
つて御通信
を願ひます

第三條 表彰ハ毎年三月之ヲ行ヒ表彰狀及記念品ヲ授與ス但シ場合ニ依リ表彰狀ノミヲ授與スルコトアルベシ

表彰狀
統計調査員 氏 名
昭和何年度ノ統計事務成績優良ナリ仍テ表彰ス

久慈郡賀美村長 氏 名
昭和 年 月 日

賀美村統計事務獎勵規程

統計調査の國家的、社會的に重要性をもつに至つたのに鑑み益々刷新改善を要すべき秋に際し之が基礎的調査の重責にある統計調査員の精神的優遇を圖り一方時間の觀念と報告期限の勵行を促し社會の期待に副ふべき的確な調査を獎勵する爲從來三年乃至五年に行つた表彰を別項の如く毎年度成績上位の者より二人宛表彰することに改め之が授與式は村各團體主催の品評會褒賞授與式舉行の際に併行し、ひいて村民に對する統計思想普及を圖ることとした。

統計事務獎勵規程左の通定め昭和十二年度より之を施行す。

賀美村統計事務獎勵規程

第一條 統計事務獎勵ノ爲左ノ各號ノ一二該

- 當スルモノハ之ヲ表彰ス
- 一、統計調査員ニシテ職務ニ精勵シ成績優良ナル者
- 二、統計ニ關スル特殊ノ施設又ハ考案ヲナシ裨益アリト認ムル者
- 三、其ノ他統計ノ改善ニ盡力シ其ノ功績顯著ナル者

第二條 統計調査員ニ對スル表彰ハ其ノ年度内ニ於ケル成績ニ依リ之ヲ行フ

統計調査事務成績調

| 調査區名 | 調査員出席數 | 報告期限 | 報告書ノ全件記載不備 | 實地調査ノ小票 | 其ノ他 |
|---------|------------|------------|------------|---------|-----|
| 時間前參會日數 | 調査員出席數 | 報告期限 | 報告書ノ全件記載不備 | 實地調査ノ小票 | 其ノ他 |
| 時間後參會日數 | 報告期限 | 報告書ノ全件記載不備 | 實地調査ノ小票 | 其ノ他 | |
| 到着全上 | 報告書ノ全件記載不備 | 實地調査ノ小票 | 其ノ他 | | |
| | 報告書ノ全件記載不備 | 實地調査ノ小票 | 其ノ他 | | |
| | 報告書ノ全件記載不備 | 實地調査ノ小票 | 其ノ他 | | |
| | 報告書ノ全件記載不備 | 實地調査ノ小票 | 其ノ他 | | |
| | 報告書ノ全件記載不備 | 實地調査ノ小票 | 其ノ他 | | |
| | 報告書ノ全件記載不備 | 實地調査ノ小票 | 其ノ他 | | |
| | 報告書ノ全件記載不備 | 實地調査ノ小票 | 其ノ他 | | |

(村長ニ於テ常ニ之ヲ調査ス)

久慈郡賀美村長 氏 名

昭和 年 月 日

統計調査員 氏 名

右者克ク職務ニ盡瘁シ優良ナル成績ヲ擧ゲ各年度ニ於ケル表彰ヲ受クルコト何回其ノ功績

洵ニ顯著ナリ仍テ之ヲ表彰ス

昭和 年 月 日

久慈郡賀美村長 氏 名

優良統計調査員表彰

眞壁郡統計事務研究会下館支會に於ては調査員優遇の目的を以て去る四月十日調査員にして成績優秀なる者に對し支會内町村一名宛支會より表彰狀並に記念品を贈呈し表彰を行ひ又調査員にして四ヶ年以上勤続し退職せる者に感謝狀を贈呈した。

表彰狀贈呈者
下館町小島誠一郎、竹島村大山喜一郎、養蠶村長須正一、河間村渡邊高一、中村上河原喜興壽、五所村添野正平、伊證村山中國助、大田村川田好郎、嘉田生崎村齋藤貞次、村田村松本彌一郎、古里村小島義三郎、新治村日向一郎、小栗村海老原信一

△感謝狀贈呈者

竹島村小島正壽、中村石崎覺一、新山巽、古里村大島清五郎、日向卯三郎、新治村中島正一

渡里村調査員會

東茨城郡渡里村では五月二十日全村役

場に於て統計調査員會を開催、縣より郡擔任の小泉屬が出席した、午前八時三十分開會、綿引助役の開辭に續いて小泉屬より主として春季調査に就ての説明ありたる後、各自持参せる調査小票等の互審會を行ひ以て調査の完璧を期して散會した。出席者左の如し。

△役場 綿引助役、須能書記

△調査員 安藤清、須能新、雨谷胤弘、鈴木丈夫、大津孝二郎、小岡江卯之吉、大槻勇五郎、根本貞三郎、根本正造

西郷村調査員會

東茨城郡西郷村では五月七日全村役場に於て統計調査員會を開催、縣より郡擔任の小泉屬が出席した、午後一時三十分開會、鯉淵村長の開辭に續いて小泉屬より統計調査員會議要項により説明ありたる後、第七調査區の一部を實施調査を施行し以て調査の完璧を期し午後五時散會した。出席者左の如し

△役場 鯉淵村長、綿引助役、關谷書記

△調査員 綿引淺太郎、加倉井房吉、久保田

(隣郷)高澤隣郷村助役

久慈郡中部統計事務研究会

六月二十五、二十六兩日久慈郡中部統計事務研究会を高倉村役場に開催した縣統計課より同郡擔任の高島屬出席し午前十時半細谷高倉村助役の開會の挨拶あり、續いて高島屬の挨拶並に縣提出議案に依り詳細説明ありたる後質疑應答をなし散會した。出席者左の如し

細谷助役(高倉)鶴田書記(中里)助川書記(賀美)小田部書記(小里)鈴木書記(染和田)根本書記(天下野)吉成書記(高倉)會澤書記(金沙)荒井書記(金郷)大森書記(世喜)

筑波郡中部統計研究会

五月二十六日全郡小野川村役場に於て統計事務研究会を開催、縣統計課より池田屬、松井主事補が臨席した。午前十時小野川村長の開會の辭に次で池田屬、松井主事補より報告期限の勵行、各季統計調査實施に當り細則に基き調

精一、長谷川角之介、大津芝四郎、小瀧正翁、江幡三八吉、軍司一之、所誠之介、綿引幹男、出澤勢太郎、加藤仁衛門、加藤和夫、大坪眞一

那珂郡西部統計事務研究会

那珂郡西部統計事務研究会は六月二十六日隣郷村役場樓上に於て開催、縣より吉見屬が出席した。午前十時開會、高澤隣郷村助役の開辭に次ぎ吉見屬より簡單なる挨拶の後、直に縣の提案事項に就き説明、夫々質疑應答を重ね次いで部會提出事項の左記事項に就て協議を重ね午後二時閉會した。

一、綠肥用作物ニ關スル件
二、鶏ニ就テ
三、各季調査集計表記入ニ關スル件
尙出席者は左の通りである。

寺門書記(辭)三村書記(大場)萩谷書記(上野)藤田書記(大宮)大森書記(大賀)長書記(玉川)岡崎書記(鹽田)根本書記(山方)岡崎書記(檜澤)橋本書記(小瀨)西村書記(野口)古田土書記(長介)川澤書記(八里)飯川書記

役石塚耕作、豊岡村書記中島良平

西茨城郡統計事務研究会

七月七日同郡統計事務研究会では北川根村役場に於て定例研究会を開き縣統計課より部統計主事補が臨席した午前十時開會上野同村長より挨拶あり次いで縣提出事項に就き部統計主事補より詳細説明の上質疑應答を重ね後笠間町成田書記より千葉縣視察の概況報告あつて閉會した、出席者左の如し

(笠間町)成田書記 (安戸町)友部助役
(岩間町)宇都野書記 (北川根村)野口書記
(大原村)石井書記 (大池田村)川松書記
(七會村)仲田書記 (北山内村)宮本書記
(南山内村)笹島書記 (西山内村)羽方書記
(東那珂村)宮崎書記 (北那珂村)輕部書記
(岩瀨町)倉品書記

本縣總務部長更迭

本縣總務部長山本秋廣氏は今回地方官異動に伴ひ七月一日付を以て退官せられ後任には警視廳官房主事今松治郎氏が七月八日付を以て發令された従つて本統計協會長も會則の示す所に依り今松新部長が會長となることとなつたので山本前會長には記念品を贈呈して其の勞に酬ゆることとした

鐵鋼調査に關する調査

現在鐵鋼需要の現狀に鑑み政府に於ては鐵鋼需給及價格の調整を圖る爲鐵鋼關稅の暫定的撤廢其他各種の措置を講ぜられつゝあるのであるが一般鐵鋼の生産販賣等に關する狀況調査の爲資源調査法に基き鐵鋼調査に關する規程が商工省令第三號を以て四月十六日公布せられましたから貴市町村内に關係當業者がありましたら統計課宛御報告を願ひます。

一、鐵鋼調査票提出者の種類は

(イ)商工省告示第三四號にて指定せる鐵鋼の製造業者
 (ロ)同上販賣業者(輸移出入業者を含む)但(ハ)の販賣業者は商工省令第三號第一項但書に依り販賣數量月額三十吨(一日一吨約二百六十七世)程度以上の販賣力あるもの又は月末在

庫數量十吨を有するものに報告の義務があります。
 二、前項製造業者、販賣業者輸移出入業者中には鑄物業者鐵工所機械製作所其他鐵鋼加工業者又は鐵鋼加工製品の販賣業者等にして鐵鋼材を地金の儘販賣せざるもの及古鐵販賣業者を含みません。

昭和十二年商工省令第三號第三項の規定に依る鐵鋼の種類は左の通指定されました

銑鐵、鋼片、シートバト、棒鋼(鋼丸鋼角鋼及平鋼形鋼(山形鋼、丁形鋼、溝形鋼、工形鋼及乙形鋼)軌條及鐵口板、線材、鋼管(各種鐵口無鋼管鍛接鋼管及熔接鋼管)帶鋼、金屬を鍛せざる鋼板(但し美裝鋼板及珪素鋼板を除く)厚板(厚六尺以上、中板(厚一尺以上六尺未満)薄板(厚一尺未満但しブリキの原板を除く)ブリキ

統計主任者異動 (上は新任括弧内は舊)

昭和十二年五月十八日 久慈郡那戸村 藤田 義明 (鴨志田慶三郎)
 四月廿八日 結城郡山川村 五十幡 隆 (高島 庄一郎)
 五月二十七日 多賀郡日立町 戸 祭 正 (大内 健司)
 六月十一日 多賀郡松岡町 細金 洗 (樋口 五郎)

統計調査員異動 (上は新任括弧内は舊)

昭和十二年四月三十日 眞壁郡古里村 飯泉 宗 吾 (日向 卯三郎)
 大木 文雄 (坂橋 芳郎)
 四月十七日 眞壁郡上妻村 北島 徳三郎 (北島、泰吉)
 須藤 長兵衛 (門井 丑造)
 柴森 仁太郎 (野口 政次郎)
 吉川 清次郎 (塚田 長重郎)
 五月十日 東茨城郡上中妻村 大貫 敬三郎 (大貫 隆正)

| | | | | |
|-----------------|-----------------|---|--------|------------|
| 柳林 新太郎 (柳林 健太郎) | 菊池 靜一 (森 福之進) | 全 | 五月二十二日 | 鹿島郡沼前村 |
| 雨谷 政夫 (雨谷 熊夫) | 坂本 清吉 (坂本 藤次郎) | 全 | 五月十九日 | (藤枝 誠三) |
| 立原 藤一 (立原 鶴松) | 阿久井 善一郎 (朝倉 宗助) | 全 | 五月十九日 | 那珂郡山方村 |
| 飯野 富吉 (飯野 牛藏) | 久保野谷 正吉 (小林 清平) | 全 | 五月十七日 | (木村 淺之介) |
| 櫻井 伊兵衛 (櫻井 庄三郎) | 長谷川 善四郎 (塚越 鶴治) | 全 | 五月十七日 | (清水 清之介) |
| 山本 藤吉 (大井 浦次) | 黒田 明光 (沼田 寧) | 全 | 五月十七日 | 猿等郡靜村 |
| 丸山 龜之助 (丸山 四郎治) | 宮川 力定 (増 員) | 全 | 五月十五日 | (金久保 喜一) |
| 齊藤 彌市 (鯉淵五郎右衛門) | 宮田 善一 (瀬戸井 富二) | 全 | 五月十五日 | (金久保 弘) |
| 室町 正 (増 員) | 石塚 時藏 (石塚 捨吉) | 全 | 五月十五日 | 那珂郡木崎村 |
| 廣瀬 恒一郎 (比企 林造) | 磯山 善吉 (高塚 茂十) | 全 | 五月十四日 | (井坂 清幹) |
| 會澤 元一 (鈴木 音之介) | 倉持 賢一郎 (海老原光一郎) | 全 | 五月十四日 | (江幡 寶) |
| 會澤 眞 (菊池 甲子雄) | 石塚 重雄 (渡邊 練作) | 全 | 五月十四日 | 全那珂郡川田村 |
| 久保田 謙壽 (久保田 章一) | 伊藤 兵一 (金井 清一郎) | 全 | 五月十四日 | 寺沼 武雄 |
| 五月十七日 新治郡七會村 | 五月二十日 久慈郡佐竹村 | 全 | 五月十四日 | (市毛 五郎次) |
| 五月十七日 新治郡土浦町 | 寺山 鏡三郎 (白土 爲吉) | 全 | 五月十四日 | 那珂郡神崎村 |
| 青木 源之 (若松 西之助) | 五月二十一日 猿島郡境町 | 全 | 五月十四日 | 那珂郡神崎村 |
| 飯塚 靜夫 (大木 政造) | 羽部 徳太郎 (金子 文吉) | 全 | 五月十四日 | 澤畑 義一 |
| 四月二十八日 結城郡山川村 | 戸 限 陸 造 (増田 甚八) | 全 | 五月十四日 | (澤畑 與次右衛門) |
| | 五月二十一日 猿島郡櫻井村 | 全 | 五月十四日 | 西茨城郡西山内村 |
| | 關 彌平 (宇都木 順二) | 全 | 五月十四日 | (中根 覺) |
| | | 全 | 五月十四日 | 眞壁郡長讚村 |
| | | 全 | 五月十四日 | (小見 嘉平) |
| | | 全 | 五月十四日 | (寺内 忠一) |
| | | 全 | 五月十四日 | (渡邊 元一) |
| | | 全 | 五月十四日 | (沼口 高) |
| | | 全 | 五月十四日 | (沼口 衛) |

| | | | | | | |
|---------|----------|---|---------|----------|--------|----------|
| 高濱 唯四郎 | (武井 政四郎) | 全 | 五月二十四日 | 稻敷郡江戶崎町 | 澤島 一男 | (川崎 建治) |
| 五月二十五日 | 新治郡小幡村 | 全 | 五月二十一日 | (松本 彦治郎) | 橋本 清 | (橋本 西之介) |
| 高橋 理一郎 | (高橋 秀夫) | 全 | 石川 彦之丞 | (田所 新之助) | 河野 正 | (瑞 武雄) |
| 五月二十五日 | 新治郡石岡町 | 全 | 桑島 正二 | (佐藤 清之助) | 瑞 卯之太郎 | (佐藤 捨長) |
| 五月二十八日 | 新治郡岡部村 | 全 | 清原 倉之助 | (宮本 庄之助) | 坂本 梅治 | 稻敷郡十島村 |
| 眞家 本之助 | (眞家 重治) | 全 | 五月二十九日 | 猿島郡生子實村 | 全 | (仙 英) |
| 久保田 庫之助 | (須藤 善市) | 全 | 中村 剛一郎 | (古宮 彌助) | 全 | 東茨城郡川根村 |
| 永井 義一 | (金子 浅次) | 全 | 野口 房藏 | (坂垣 義幹) | 小松崎 薫 | (小松崎 顯美) |
| 大和田 七五三 | (齊藤 正之助) | 全 | 六月八日 | (猿島郡幸島村) | 萩谷 操 | (萩谷 鐵男) |
| 五月二十日 | 多賀郡華川村 | 全 | 關 源平 | (鈴木 光) | 全 | 五月三十一日 |
| 滑川 伊市郎 | (丹 正美) | 全 | 森 彌平 | (武井 潤) | 鬼澤 安太郎 | 東茨城郡白河村 |
| 小野 幸一 | (小野 薫) | 全 | 六月九日 | 行方郡大生原村 | 郡司 啓司 | (中村 庄七) |
| 山縣 虎雄 | (山縣 一) | 全 | 小澤 長右衛門 | (村山 文作) | 小野 英雄 | (郡司 雲雄) |
| 五月二十七日 | 行方郡秋津村 | 全 | 土川 茂衛門 | (飯島 仙太郎) | 六月十一日 | 多賀郡松岡町 |
| 鈴木 金之丞 | (鬼澤 義長) | 全 | 小城 嘉右衛門 | (箕輪 甚之助) | 柴田 武 | (柴田 留夫) |
| 宇津木 通 | (關口 退助) | 全 | 藤崎 市彌 | (大川 仁助) | 全 | 六月二日 |
| 郡司 利一 | (郡司 耕一郎) | 全 | 六月五日 | 久慈郡譽田村 | 大野 一郎 | (青野 茂平) |
| 五月二十五日 | 東茨城郡磯濱町 | 全 | 六月七日 | (江幡 秀太郎) | 島田 源太郎 | 新治郡牛渡村 |
| 海野 倉造 | (櫻井與右衛門) | 全 | 横田 定雄 | (眞壁郡長嶺村) | 平塚 芳松 | 新治郡上天津村 |
| 岸和田 正壽 | (小竹森 信重) | 全 | 五月二十五日 | (沼口 通) | 六月十日 | (神立 安次郎) |
| 石崎 清太郎 | (小野崎松之助) | 全 | 塙 豊之介 | 那珂郡村松村 | 森ヶ崎 昇 | 新治郡志筑村 |
| 五月二十五日 | 行方郡武田村 | 全 | 川 亦 熊太郎 | (瑞 利雄) | 六月十八日 | (森ヶ崎 包男) |
| 平野 穀夫 | (高柳 庄次郎) | 全 | | (宮本 長三) | 大和田 主馬 | 西茨城郡北那珂村 |
| | | | | (増 眞) | 仁平 好文 | (大和田 康藏) |
| | | | | | | (中原 宇内) |



短歌

丹 四郎 選

『初夏雜詠』 『梅雨』

(贊)
今朝もまたつゆかびくさきぬれ袋を身につけにつつ田植にいづる
北相馬郡菅生村 鈴木 景明
五十嵐 康彦

木の間より影見えそむる夕月の涼しき程に夏は來にけり
猿島郡幸島村 齊藤 綱壽

明日もまた降りつぐ雨と思ひつゝ今宵蓑笠の手入しにけり
北相馬郡東文間村 宵雪 迂人

梅雨の空明日は晴れむか夕土間に麥刈る鎌を研ぎ居たりけり
新治郡志士庫村 山口 義道

梅雨晴れのみどり清しき反射かへし初蟬のこゑ漸く聞ゆ
新治郡志士庫村 山口 義道

空青く若葉の末に雲ありてひと際強く光り居るなり
大野 芳雄

江川邊の水波む橋もひたされてたほふりつづく五月雨の空
那珂郡玉川村 寺門 行

むし暑き麥のいきれに堪えにつつ甘藷の苗は植ゑつけにけり
結城郡西豊田村 神谷 草二

白々と卵の花咲きて脊戸庭の明るき露の雨に濡れをり

所々青きは小麦畑にかも麥の秋來ぬこゝ下總野
結城郡西豊田村 古橋 梅吉
行方郡武田村 境 勇

あすもまた梅雨のつづくやたそがれの茂る木の葉に雨蛙鳴く
眞壁郡五所村 谷 貝 竹 水

朝つゆにしとどに濡れて少女子は川べの草を刈り居たりけり
行方郡延方村 黒 須 惠三郎

皐月野の日は暮れはてて幾日ぶりに昇りし月か見つゝ清しき
稻敷郡莖崎村 關 ロ タケヲ

梅雨空のくもりは深し夕小田に蛙一しきり鳴き勢ふなり
那珂郡前渡村 川 又 浩

糸たるゝ水の面に降れる五月雨にうきの動きの明かならず
稻敷郡源清田村 杉 山 榮 助

ふりつゞく雨にぬれつゝつばくらは子の餌を求めて飛びゆく
あはれ

長き雨あけし心も晴々と窓に倚りつゝ朝日を仰ぐ
水戸市袴塚 大 高 靜 香

次回 『晩夏雜詠』 『水』

推 薦 歌 沼 尻 蛙 村

河原べの青葙むらの朝風をすがしみにつゝ出でて來にけり
田作りもすでに久しと思ひつつひとり田打ちにいそしむ我は

うかららとはげみきほひて刈りしかば今日の麥刈りの抄りにけり
 梅雨雲はひくく垂りこめひむかしの筑波の山をなかばつゝめ
 る
 梅雨となる空のけはひや霞切のこもる葦むらそよりとせぬ
 行々子川洲の葦にこもり鳴く朝をしづくそそぐ梅雨かも
 はちす葉の巻葉ぬき立つ水鏡沿に昨日も今日も梅雨の雨ふる
 枝たれて窓をおほへる椽の葉の梅雨の雫はしたよりにけり
 梅雨じめる家内いぶせみ窓あけて埜の茶漬をうかららと食ふ



俳句



前田 猶春選

題「蟬」「箱庭」

○ 北相馬郡東文間村 古琅庵 竹雪
 箱庭の野草も花をつけにけり
 ○ 鹿島郡豊郷村 思水 生
 箱庭の宵の風情や豆電氣
 ○ 行方郡武田村 境 谿水
 かんくゝと照る日の森や蟬時雨
 ○ 水戸市袴塚 大高 静香

松の風蟬をきゝつゝ眠りけり 鹿島郡波崎町 石川 武治
 ○ 箱庭に趣向をこらす寮の人 行方郡延方村 黒須 惠三郎
 ○ 蟬なくや朝雨あがる橋林 稻敷郡太田村 五十嵐 康登
 ○ 塵ふかく茄子の葉うらの蟬のから 東茨城郡石崎村 櫻井 星光
 ○ 箱庭に今朝も出て草をとりけり 行方郡大和村 内田 六統生
 ○ 蟬の尿木の間洩る陽に光りけり 同 同 人
 ○ 山荘に蟬の來て鳴く柱かな 稻敷郡君原村 小松澤 霞翠
 ○ 雷遠く去りて蟬なく木立かな 同 同 人
 ○ 箱庭に小さき影もつ石燈籠 新治郡土浦町 内田 櫻川子
 ○ 箱庭の池あふれゐる豪雨かな 同 同 人
 ○ アンテナに残る薄陽や蟬涼し 同 同 人
 ○ 搗きかけてある濞白に蟬暑し 同 同 人

秀逸

○ 新治郡互會村 増子 よし女
 (賞) 箱庭に届く灯影を親しめり
 ○ 同 箱庭の松にかゝりて糸の屑

次號課題

題「花火」「虫」通じて十句迄

締切 九月五日
 宛名 茨城縣廳内統計協會文藝係



柳川



山中 緋郎選

行方郡延方村 黒須 一雅
 別荘地ビール飲んで海が見え
 行方郡武田村 境 谿水
 波音の絶間くゝの詩吟なり
 鹿島郡豊郷村 石津 思水子
 汐浴びは母へ感謝の土産物

水戸市袴塚 大高 静香
 泳げない母はなぎさをたゞ歩き 新治郡志土庫村 山口 義道
 海へ行く計畫だけでつひ終り 北相馬郡東文間村 宵雪 迂人
 海水着一際目立つ肉体美 稻敷郡葦崎村 關口 タケヲ
 戀人を海へ誘つて恐がらせ 新治郡土浦町 内田 櫻川子
 海岸に何か囁やく二人なり 那珂郡前渡村 川又 浩
 海鳴りへ不安が続く漁村の灯 西茨城郡福原 森 緑山
 日歸りの心に残る海の色 眞壁郡五所村 谷具 竹水
 夏だけの儲けをみてる間貸なり

今回入賞句なし

次號課題「旅」

締切 八月二十日
 宛名 茨城縣廳内統計協會

茨城統計と廣告の 効果

『茨城統計』は縣下三百七十九ヶ市町村及び各市町村の統計調査員約四千名は勿論縣下各種團體、會社、工場等に配付し、中央各省、道府縣へも漏れなく配付するものにて廣告の効果偉大なるものがあると信じます。

◆本誌の廣告料金は左の通りです

- 特別(一頁(表紙表裏)) 金拾五圓
 - 特別(半頁(同)) 金八圓
 - 普通(一頁) 金四圓
 - 普通(半頁) 金二圓
 - 普通(四分ノ一) 金一圓
- ▼同一廣告を引續き二回以上のときは一割五分、五回以上のときは二割の割引をします。
- ▼廣告に寫眞挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます
- ▼廣告料は前納に願ひます。

茨城縣廳内

茨城縣統計協會

編輯後記

× 今月號初めで商工省統計官川澄已知雄氏より玉稿を送らる。蓋し商工統計に關する嚆矢のものである。又統計學社名譽社長横山雅男氏が本邦統計界の鼻祖杉亨二博士の事蹟を執筆せらる。共に得難く味讀すべき雄篇といふべきである。

× 時恰も農繁期に際し春季調査から夏季調査と引續いた調査員各位の御心勞は同情に堪へない。併し各位の努力が報いられて名實共に茨城統計が認められてゆく姿を見る愉快こそは暑さを吹っ飛ばすに充分なものであらう。

× 各郡統計主任の縣外視察は大いに得るところがあつたらう。其の收穫は寧ろ筆紙に盡るものではあるまい。体得したところによつて今後の指導に當れば實際に即して改善裨益するところが尠くないと信ずる。

× 盛夏酷暑の候、各自の御自愛御辨養を祈り秋の活動に備へられん事を望んで擲筆する。

— 加藤敬愛 —

昭和十二年七月十三日印刷
昭和十二年七月十五日發行

(隔月一回十五日發行)

一部金十錢

水戸市北三ノ丸茨城縣廳

茨城縣統計協會内

編輯人 川崎末吉

水戸市南三ノ丸一〇七ノ二

印刷人 柴博

水戸市南三ノ丸一〇七ノ二

印刷所 柴印刷所

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内

發行所 茨城縣統計協會